



HYOGO・KOBE2022 ぼうさいこくたいで 災害時の外国人支援ツールを紹介しました

(一財)自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課

クレア多文化共生部では、地震、水害などの自然災害が近年多発していることから、災害時の外国人支援の取り組みを強化しています。災害時の情報伝達やコミュニケーションに役立つツールの作成や、災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業などを充実させてきましたが、クレアの取り組みをあらゆる機会で紹介し、多くの方に知っていただきたいとの思いから、大規模イベントなどへも参加しています。今回の現場レポートでは、2022年10月22日、23日に開催された、「HYOGO・KOBE2022 ぼうさいこくたい」への出展の様子について報告します。



多くの団体や企業が参加した 2022 ぼうさいこくたい

ぼうさいこくたい

ぼうさいこくたい（正式名称「防災推進国民大会」）は、「防災に取り組む様々な団体や機関などが一堂に会する」一大イベントです。2016年に東京で第1回が実施されて以来、毎年場所を変えて行われてきましたが、第7回目となる2022年度は、「未来につなぐ災害の経

験と教訓～忘れない、伝える、活かす、備える～」をテーマとして、兵庫県神戸市で開催されました。

「防災推進国民大会 2022 実行委員会」（内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議）主催、兵庫県、神戸市、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター協力のもと、現地参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリッド形式で開催された今回の大会は、現地来場者実数約1万2,000人、オンライン視聴実数約1万1,000回（いずれも主催者発表）を記録しました。

大会当日は天候に恵まれ、屋外ブースを回っていると、うっすらと汗ばむ場面もありましたが、神戸港からの浜風が心地よく、会場の一角となったなぎさ公園では、防災ドローンや地震体験車などの展示を楽しむ合間に、海を眺めながらお弁当を広げる家族連れの姿も散見されました。



さわやかな秋晴れに恵まれた HAT 神戸

HAT 神戸

今回のぼうさいこくたいの会場となった、人と防災未来センター、JICA 関西、IHD センタービル、なぎさ公園は、それぞれが隣接する施設で、「HAT 神戸」に位置します。「HAT 神戸」とは東部新都心の愛称で、HATは Happy Active Town の頭文字を組み合わせたもの。摩耶山の南、ウォーターフロントに開けるこの地域が、ハッと変貌し、誰もが幸福で、活気あふれる街となるように

願いを込めて命名された」と神戸市のホームページで紹介されています。

神戸と言えば、思い起こすのは、1995年の阪神・淡路大震災です。当時、兵庫県には約10万人の外国籍の方が居住していましたが、日本語が不自由な外国人の多くは、正しい情報の入手に苦勞したり、避難所などで文化的違いによる日本人住民との摩擦に直面したりしました。

さらには、この震災における、日本人の死傷者は約1%でしたが、外国人の死傷者は2%以上だったとの報告もあります。この経験をきっかけに、日本語の理解が十分でない外国人にも、災害に関する正確な情報を迅速に伝えるための手段として、「やさしい日本語」が活用されるようになったと言われています。また、「多言語での災害に係る包括的な情報の提供手段として、『日常生活にいち早く戻るための支援』を行うための活動拠点」である「多言語支援センター」も、阪神・淡路大震災において、外国人被災者に多言語での情報提供を行った「外国人地震情報センター」に着想を得ています。

このように、「災害時の外国人支援の原点」とも言える神戸の地で、災害時の外国人支援に関するクレアの取り組みを紹介できる機会を得たことに、深い感慨を覚えました。

クレアのプレゼンテーションブース

クレア多文化共生部は、2019年からぼうさいこくたいに参加しており、今回が4回目となります。2022年度は、「災害時の外国人支援～多言語表示、指差しで会話ができるツール、多言語版マイ・タイムライン検討ツール、外国人支援の取り組みを紹介！～」のタイトルで、プレゼンテーションブースに出展しました。

様々な分野や地域で活動されている研究者や自治体職員から近隣にお住まいの学生や防災士まで、年齢も属性も異なる多くの方が訪れ、ブース内の掲示物を眺めたりリーフレットを手にとったりしながら、ご自身の取り組みや体験などを語っていただきました。また、日頃の活動において、あまり接点のない団体や企業にもクレアの取り組みを知っていただく貴重な機会となりました。

今回プレゼンテーションブースでご紹介した主なツールは「①災害時外国人支援用ピクトグラム」「②多言語指差しボード」「③災害時多言語表示シート」「④多言語

版マイ・タイムライン検討ツール」「⑤災害時多言語支援センター設置運営マニュアル」「⑥避難者登録カード」「⑦災害時多言語支援啓発動画」の7種類で、いずれも、日本語の理解が十分でない外国人にとっても、情報が得やすくなるよう、また、日本人とのコミュニケーションが円滑になるよう作成したもので、クレアのホームページで公開しています。備えに役立つツールとして、積極的にご活用ください。



クレアのプレゼンテーションブース

番号	分類	イメージ	意味	対象
0101	施設		避難場所	表示
0102	施設		避難所	表示
0104	施設		受付	表示
0105	施設		支援所	表示
0106	施設		男	表示
0107	施設		女	表示
0108	施設		立入禁止	表示
0110	施設		喫煙所	表示
0200	機能		外国語の機能がありません	表示

ピクトグラムは2022年度事業で改訂されます

外国人住民は、日本全国で引き続き増加傾向にあります。災害時に日本人も外国人も等しく正しい情報を受け取り、避難所で混乱なく過ごすためには、平時からの備えが欠かせません。クレア多文化共生部は今後も、各地域で展開される多文化共生の推進や防災対策などの取り組みに資するツールを提供してまいります。